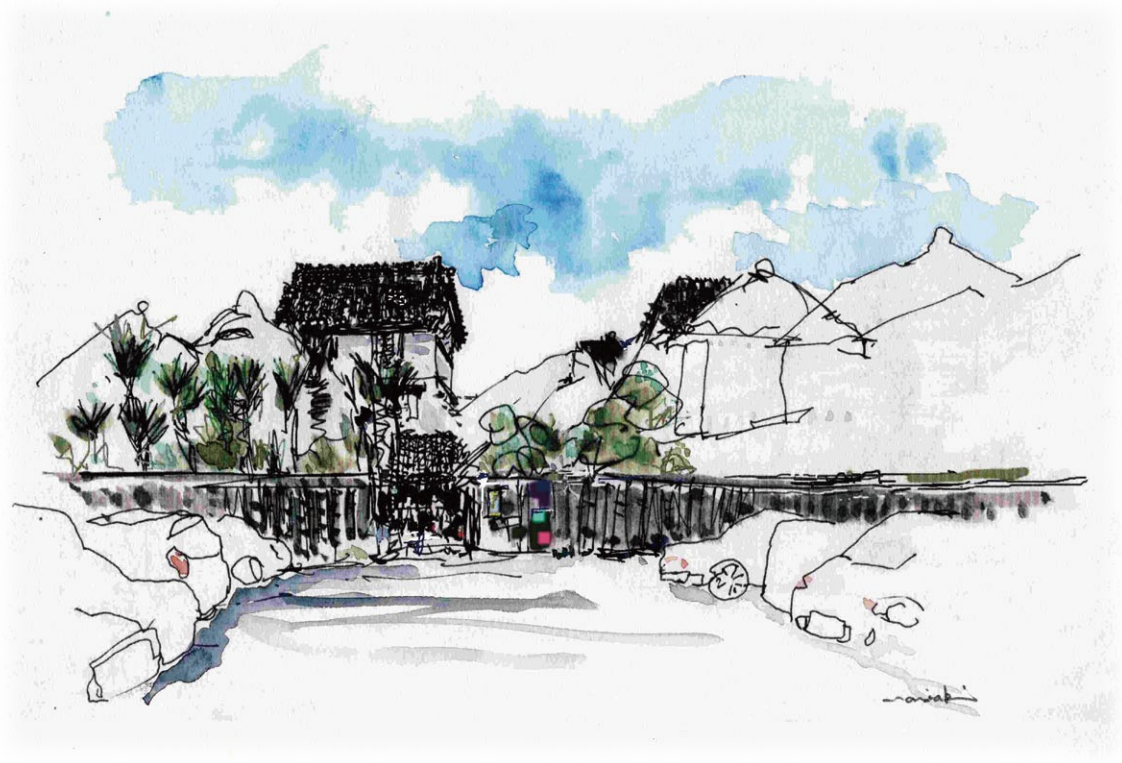


S P R I N G 2 0 1 7

# MONOTSUKURI MONOTSUKURI

## ものづくり大学通信 No.17

- 01 新学部長挨拶・学科名称変更
- 02 新教務長挨拶・退任教員紹介
- 03 学生の活躍1
- 04 学生の活躍2
- 05 教育と学習成果
- 06 研究・産学連携活動
- 07 交流
- 08 トピック
- 09 インフォメーション



## 新学部長挨拶「ホンモノに学ぶ」

学部長・建設学科教授 やしろ かつひこ  
八代 克彦

1957年 群馬県沼田市に生まれる  
1981年 東京工業大学建築学科卒業  
1986年 西安冶金建築学院(現西安建築科技大学)に中国政府給費留学生として2年間留学  
1990年 東京工業大学博士課程 満期退学  
1994年 札幌市立高等専門学校(現札幌市立大学)講師  
1996年 同助教授  
2005年 ものつくり大学建設学科助教授  
2008年 同教授  
博士[工学]

今年2017年4月、技能工芸学部の学部長を拝命しました。私は2005年に本学建設学科に着任し、今年で13回目の春を迎えました。着任時のうれしい思い出は、会う学生、会う学生が明らかに学外者である私に「こんにちは！」と声をかけてくれたことです。採用面接ではじめて本学を訪れ、気もそぞろの私は「ここなら、やって行けるかもしれない」と学生たちに勇気づけられた次第です。本学の授業は半分以上が実習で、しかも最前線で活躍する技術・技能者が指導にあたっていますので、何と言ってもコミュニケーションの基本の「き」である挨拶が日々の授業を通して学生たちに自然に習慣化されるようで、この良き校風は今も連綿と受け継がれています。

いうまでもなく、本学の特長は、技術technologyと技能skillを連結する教育研究であり、技術と技能を合わせ持つテクノロジストtechnologistsの養成が本学の使命です。梅原猛名誉総長曰く、「右に先端技術をも教える教室があり、左に伝統的な匠の技を教える教室がある《知行合一<sup>ちこうごういつ</sup>》あるいは《知徳一体》の大学」です。

本学での12年間の在職中、技術と技能が連結した教育成果のひとつとして2011-2012年度の製造・建設両学科の協働作品：ル・コルビュジエの「カップ・マルタンの休暇小屋」があげられます。学生教職員16名でフランス地中海沿岸の集落に出かけ実測調査を敢行。マイナスネジ1個から家具、建築に至るまで忠実に丸ごと再現しました(写真1)。

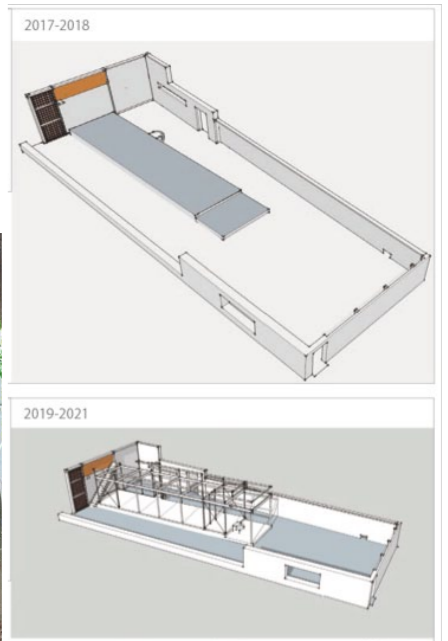
この小屋はパリのル・コルビュジエ財団からもレプリカとしてのお墨付きをいただき、一方、フランスにある本物は昨年2016年7月、上野の国立西洋美術館など世界各地の作品とともに世界遺産に登録されました。

今後とも両学科で連携しながら「自分の目と手でホンモノに触れて学ぶ」教育研究を充実すべく努力していく所存です。



写真1 世界遺産 ル・コルビュジエ「カップ・マルタンの休暇小屋」原寸制作 図1 「小さな家/母の家」プロジェクト

目下、第2弾として、同じくル・コルビュジエの世界遺産、スイスのレマン湖畔にある「小さな家/母の家」を制作準備中です(図1)。



## 2018年4月、製造学科は「総合機械学科」に進化します!

本学は21世紀の幕開けとともに、2001年4月、技能工芸学部製造・建設(技能工芸)学科の1学部2学科でスタートしました。ですから、この春入学した学生は創立17年目の17期生です。2017年度は約300名の新入生うち、留学生および女子学生の占める割合がそれぞれ約1割30名を数え、ものづくりの教育環境が新たな局面を迎えていることをひしひしと感じています。

一方、2017年春で13期を数えた卒業生たちは、ものづくり業界の最前線で欠かせない中堅・若手テクノロジストとして確実に定着しつつあり、こうした評価がここ数年、ほぼ100%近くの就職率へとフィードバックされています。

しかしながら昨今、環境・エネルギー問題への対処、AI(人工知能)、IoT(モノのインターネット)の急速な進展と普及により、人を取り

巻く環境は大きく変わろうとしています。ものづくりの世界も例外ではなく、自動運転や知能家電など、我々の生活を支えている機械も、それらを生み出すものづくりの方法も大きく変わりつつあります。すなわち、今後のものづくりは社会や人とのつながりなど広い視野と技術をもって取り組まなければならない世界になっていきます。

製造学科では、このようなものづくりの未来をリードし、今後のものづくりに不可欠な技術や技能を教育研究に広く取り入れるべく、名称により発展的な意味を込めて「総合機械学科」/ Department of Mechanical and Production Engineering に変更し、さらなる進化を目指します。

技能工芸学部 製造学科

総合機械学科 公式サイト <http://www.iot.ac.jp/mpe/>

## 機械デザインコース

アイデアを形にするための方法を追求するコース。自動車からスマートフォンまで、製品を問わずアイデアを形にするための発想力・設計力を身につけます。

## ロボットシステムコース

ロボットに関するものづくりを追求するコース。機械の知能化、機械やロボットを自在に動かす高度な制御を追求し技術を深めます。

## ヒューマンインタフェースコース

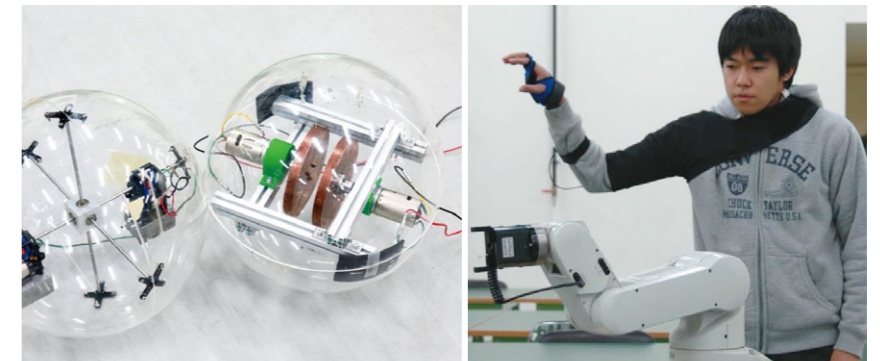
高度なセンサやバーチャルリアリティを活用し、福祉や医療などの未来に期待される新たなひととモノのつながりを追求するコース。情報・プログラミング・ひとの体や心と機械の関係について学びます。

## 生産システムコース

最新の工場、未来の加工はどうあるべきかを追求するコース。ものづくりの原点とも言える生産方式と加工方法をテーマに学びます。



自ら開発したコンピューターで疾走 溶かした鉄でモノをつくる 女子学生が開発した自動水やり機



転がって動くスケルトンの球体ロボット 身体の動きでロボットをコントロール

## 教務長就任挨拶



1957年 京都府木津川市に生まれる  
1980年 京都大学工学部卒業  
1982年 京都大学大学院修了  
東京芝浦電気(株)(現(株)東芝)入社  
2003年 ものづくり大学製造学科講師  
2005年 博士(工学) (東京大学)  
ものづくり大学製造学科助教授  
2009年 ものづくり大学製造学科教授  
[趣味] 猫、犬、鉄道、自動車、航空機に関する諸々

教務長・製造学科教授 ひらおか なおふみ  
平岡 尚文

2017年度から教務長を拝命しました。教務長の仕事は、学生諸君が大学生活を円滑に送れるよう、環境を整えることです。学修面は学部長、普段の学生生活や就職・インターンシップに関しては教務長、と所掌が分かれています。学修と学生生活は一体ですので、学部長と連携し、学生諸君がより充実した大学生活を送れるよう、サポートしていきます。

教務長の職務はヒマであることが、ある意味理想的な状態と言えます。しかし、自由を謳歌する学生諸君にとって、時に煙たい存在となることも必要です。教務長の存在など気にもしない学生生活を送ってくれるのが一番ですが、万

道に迷ったときには、堅固でありつつも柔軟なガードレールとして機能できるようにしたいと思います。

とはいえ、本学の学生諸君は意外と、と言ったら失礼ですが、しっかりしています。厳しい就職戦線を勝ち抜いて獲得してくれる就職率の高さがそれを証明しています。数々のものづくり授業においても、教員の心配をよそに最後はきちんと仕上げてくる手腕と根性を持っており、感心するものがあります。きっと教務長として手持無沙汰な日々を送らせてくれることでしょう。

## 退任教員挨拶

## ものづくり大学に熱い思いを込めて



1951年 埼玉県蓮田市に生まれる  
1974年 宇都宮大学工学部精密工学科卒業  
株式会社日立製作所生産技術部入社  
1997年 生産技術部副技師長  
2001年 e-PECセンター長  
2008年 モノづくり技術事業部主管技師長  
2013年 ものづくり大学製造学科教授  
2017年 同退職  
[趣味] 旅行、読書、ゴルフ、家庭菜園

名誉教授 せきね つぎお  
関根 次雄

退任に当たり、大学とはどうあるべきなのかについて思い描くと、その一つとして、“社会の第一線で活躍するためにより多くの高等教育という鎧を身にまとい、社会に出陣する為の準備を行うところ”という考えに至ります。

キャリア教育用語に、何々をしたい(Will)、何ができる(Can)という段階を経て、何とでもやり抜く(Must)力まで育って一人前となるステップ“WCM”という言葉があります。本学学生は恵まれた環境で多くの実践的な技能・技術を学

ぶことができ、WやCという視点では総じて自覚が養えていると思えますが、Mの力を養うには更に大きな壁を越える必要があります。時間軸を加味した計画策定、予測不能なことの考慮や実施項目の優先順位付けなどが必要になります。

本学では、長期インターンシップやプロジェクト活動、卒業研究等においてMの力を身に付ける教育を課している訳

ですが、学生たちにその思いが上手く伝えきれていない感が残ります。4年間でやるべきことは見えてきたのですが、実行に移すには至らず今後の皆さんに期待を残すこととなります。現状維持という意識を捨て、ものづくり大学の存在意義を再認識頂き、益々の発展に向け教職員皆様のご活躍を祈念致します。



2015年 インターンシップ報告会にて



2015年 留学生歓迎会にて



2015年 合同企業説明会にて



2016年 TNI(秦日工業大学)出張

## 退任教員挨拶

## 総合学としての建築デザイン



1952年 埼玉県北本市に生まれる  
1975年 千葉大学工学部建築学科卒業  
1977年 千葉大学大学院工学研究科建築学修了  
株式会社坂倉建築研究所入社  
株式会社坂倉建築研究所退所  
1990年 大島博明建築研究所設立  
1991年 株式会社大島博明建築研究所に改称  
2007年 ものづくり大学建設学科准教授  
2010年 ものづくり大学建設学科教授  
2017年 同退職  
[趣味] 旅行、サイクリング、ゴルフ

名誉教授 おおしま ひろあき  
大島 博明

建築デザインの教授として、故郷である埼玉県の活性化について学生達と研究してきました。実際に学生の設計で建築することができた行田市の障害者施設「カフェギャラリーソレイユ」や「道の駅みなのお休み処」では、たくさんの評価を頂き、「彩の国人に優しいまちづくり賞」等を受賞することができました。本学の建学精神を実践した活動です。

「公共建築の再構成に関する研究」から発展した秩父市の活動では、地域性を生かした建築やまちづくりについて提案することができました。学生諸君と調査研究してきた新秩父市民会館と新市庁舎が5年の歳月を経て、3月に竣工しました。

建築デザインは、人間について考える総合学です。部分に関する研究を集めても建築はできません。なぜなら“ひと”のための空間だからです。“ものは部分では存在しません。トータルな存在です。”建築をつくる時に大切なことは、“広い視野を持って、人と社会と環境を観察し、理解すること”です。その中に素晴らしい建築をつくる手がかりが必ずあります。そのようなシンプルなプロセスを通して優れた建築は、“発見”することができるのです。学生諸君に伝えたいものづくりの精神です。



秩父夜祭笠鉾をモチーフとした新秩父市庁舎エントランスデザイン

## 第54回技能五輪全国大会(山形県)結果報告 金賞・厚生労働大臣賞受賞 過去最多7名の入賞者

おの やすし  
建設学科教授 小野 泰

第54回技能五輪全国大会が、2016年10月21日～24日に山形県で開催されました。本大会の参加資格は23歳以下です。大会では、就業者や学生の区別はなく、同じ土俵で競い合います。各都道府県の予選会を勝ち抜いた選手達が、課題競技に取り組み、時間制限内(2日間)での完成を目指します。

本学では2001年の開学当初から挑戦し始め、建築大工職種は2003年、家具は2009年から連続出場を果たし、左官は2011年から出場しています。今大会は、これまで挑戦し続けた中で最も高い成果を得ることができました。選手達は埼玉県の予選会を優秀な成績で突破し、本大会の課題が発表された8月以降、学生自身が立てた練習計画に基づいて練習に励み、

また、実習授業でお世話になっている非常勤講師に指導を仰ぎ、大会での課題製作に必要なとなる技能・技術を習得しました。

今回は建築大工職種を除く8名の選手が初出場です。初出場は特に緊張するものですが、練習を重ねた選手達は自信を持って課題に取り組み、成果に結びつけました。入賞した7名は、11月25日に上田清司埼玉県知事を訪ね、自らの成果を報告しました。

出場者/受賞者一覧

職種	受賞	学年	氏名(大会経歴)	出身校
建築大工	金賞	3年	森脇 康太(3回目2年連続入賞)	兵庫県立龍野北高校
	銀賞	2年	手島 脩兵(3回目※初入賞)	群馬県立前橋工業高校
	敢闘賞	4年	本多 諒平(2回目2年連続入賞)	千葉県立長狭高校
家具	銀賞	2年	山口 智大(初出場初入賞)	埼玉県立進修館高校
	敢闘賞	3年	針生 直樹(初出場初入賞)	東京都立工芸高校
	敢闘賞	2年	渡邊 恵子(初出場初入賞)	東京都立工芸高校
		3年	大木 凧子(初出場)	千葉県立松戸国際高校
		3年	瀬尾 真(初出場)	東京都立工芸高校
左官	銅賞	2年	田中 健太(初出場初入賞)	埼玉県立熊谷工業高校
		3年	竹田 圭佑(初出場)	東京都立杉並工業高校
		3年	山賀 希(初出場)	群馬県立前橋南高校

注:学年は2016年12月時点のものです。 ※高校時代2回出場

【左官職種では、本学卒業生の小室和博さん(現・岡建工事(株)所属)が、銀賞を受賞しました。】



大学ホームページ(<http://www.riot.ac.jp/project/gorin/>)でも詳細をご覧ください。

## 技能五輪全国大会金賞を獲得するまで

私は高校時代、若年者ものづくり競技大会(木材加工)に2度出場し、多くの資格を取得することにも努力しました。ものづくり大学への入学動機は、ものづくり大学が技能五輪に力を入れていたからです。私は高校を都市計画類型(土木科)で卒業しているため、大学に入学してからの建築系の授業は学ぶことが多く、将来大工になろうと思っていた私にとって、実習は多くの技術を学ぶ場でもありました。入学してから技能五輪(建築大工)に1年生から毎年出場し、第52回技能五輪全国大会は出場のみで終わりましたが、第53回技能五輪全国大会では敢闘賞を受賞、第54回技能五輪全国大会では金賞を受賞しました。

今大会当日は、いつも練習している環境と違い、完成作

もりわき こうた  
建設学科4年 森脇 康太(兵庫県立龍野北高校出身)

品は練習のベスト作品に比べ、納得のいく作品が出来ず悔しい思いをしましたが、結果は金賞を受賞することができ素直に嬉しく感じました。金賞受賞という嬉しい結果の一方、自分としては消化不良の思いが残ったので、受賞に伴い出場機会を得た国際大会では悔いの残らない良い作品を作り、金賞を獲得してきます。



競技中

表彰式の様子

## 2017年第44回技能五輪国際大会(アブダビ)に向けて始動

ふかい かずひろ  
建設学科教授 深井 和宏

技能五輪全国大会で金賞を受賞し、技能五輪国際大会(UAE、アブダビ)出場という得難いチャンスを見事に獲得した森脇康太さんに心からエールを送ります。国内大会同様、深井が主催し、森脇さんも所属している建築研究会(部活動)などの場を利用して最大限の支援をしていきます。

縁あって高校生のころから見守ってきた森脇さんは、4月から4年生になります。2年毎に開催される世界大会への出場権は国内大会での金賞のタイミングが運を左右します。生来の才能と努力で出場権をつかみ取りました。経験豊富な和田三郎先生(本学非常勤講師・技能五輪国際大会エキスパート)の指導の

もと、存分に力を伸ばして悔いのない大会にしてほしいと願っています。

国際大会は国内大会とは全く異なる、勝つことを最優先した、国対国の団体戦であることがわかってきました。一定のルールと駆け引きの中で上位を目指すことになります。準備、情報収集そして作戦が重要です。森脇康太選手、和田三郎先生、和田智一先生(本学非常勤講師)、深井和宏をコアに、試行錯誤しながら計画を立て始動いたしました。学科、事務局および大学全体でのご協力、ご支援をお願いする次第です。

## 平成27年度後期技能検定、平成28年度前期技能検定 結果

技能検定は、「働く人々の有する技能を一定の基準により検定し、国として証明する国家検定制度」で、職業能力開発促進法に基づき実施されています。合格者には合格証書が交付され、技能士と称することができます。

本学では、授業だけでなく授業外でも練習できる設備がそ

### <製造学科>

職種	級	合格者数	備考
機械加工(普通旋盤)	2級	3	
	3級	3	うち1名が優秀者として埼玉県から表彰
機械加工(フライス盤)	3級	1	
機械検査(機械検査)	3級	8	うち1名が優秀者として埼玉県から表彰
機械保全(機械系保全)	3級	14	

※ほかに、「機械加工(普通旋盤)3級」を高校生時に受験合格した学生1名が、本学入学後に優秀者として埼玉県から表彰された。

### <建設学科>

職種	級	合格者数	備考
とび	2級	1	
	3級	2	
建築大工	2級	2	
	3級	18	うち2名が優秀者として埼玉県から表彰
左官	2級	3	
	3級	19	うち3名が優秀者として埼玉県から表彰
造園	3級	4	

## ETロボコンプロジェクトが大活躍

製造学科准教授 <sup>みつみのる</sup>  
三井 実

本学ETロボコンプロジェクトと聖望学園高等学校の高大連携チーム「MONO&科学の妖精」が、2016年11月に行われたETロボコンにおいて、北関東地区大会では総合優勝し、その結果進出したチャンピオンシップ大会モデル部門で3位に入賞しました。

ETロボコンは競技部門とモデル部門で競われ、ソフトウェアを開発する企業から高校生まで、全国から360以上のチームが出場するハイレベルなソフトウェア技術を必要とする大会です。

LEGO社のマインドストームを用いた機体で、コースに引かれたラインを検知しながら走り難所を突破する競技部門は、全出場チームが同じ機体で、違うのは機体にインストールするソフトウェアのみ。モデル部門はソフトウェア・プログラムの設計図ともいべき「UML」というツールで書かれたモデルの秀逸さを競います。

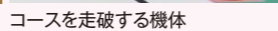
今後も本学ETロボコンプロジェクトにご声援をお願い申し上げます。



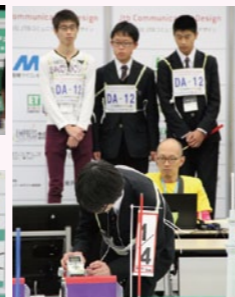
チーム集合写真



難所をクリアする機体



コースを走破する機体



ロボットのセッティング

日本建築学会関東支部 第18回提案競技  
「美しくまちをつくる、むらをつくる」入賞

建設学科准教授 <sup>とだ つきお</sup>  
戸田 都生男

当競技は審査員に建築・まちづくりを代表する専門家を迎え、1999年から継続されています。建設学科戸田研究室の平野慎也さん（埼玉県立川越西高校出身）、峯崎光さん（東京都立高島高校出身）、藤田梨沙さん（千葉県立我孫子高校出身）の3名は研究室教員とともに今回のテーマ「歴史と現在を紡ぎ本庄の未来を拓く『中山道本庄宿の再生』」に応募し、入賞（佳作）しました。入賞者は社会人や大学院生が多く、3年生（受賞当時）では当研究室学生が唯一の受賞です。

学生らは夏休みから本庄市民に聞き取りする等の調査を行い、交流も深めました。その結果、2016年11月16日の公開二次審査に選出され、市長の前でプレゼンテーションを行い、受賞に至りました。

その後、入賞作品展として2016年12月9日から2017年1月13日まで日本建築学会の建築会館ギャラリー（東京都港区）と本庄市役所市民ホールで成果をアピールしました。学生らが本庄市での調査結果を形にしたことは卒業研究等にも活かせる貴重な経験です。



市長・審査員への公開二次審査会プレゼンテーション



受賞作品と戸田准教授(左)・平野慎也さん(右)



学生らのヒアリング調査の様子

公益社団法人日本鑄造工学会  
第2回学生鑄物コンテストで最優秀賞受賞

製造学科教授 <sup>にし なおみ</sup>  
西 直美

公益社団法人日本鑄造工学会主催の第2回学生鑄物コンテストで、ものづくり大学チームが最優秀賞を受賞しました。

コンテストでは、大学・大学院・高専の研究室に属する学生3名でチームを構成し、各大学1チームが参加しました。本学からは、高温プロセッシングシステム研究室の上村武正さん（神奈川県・鎌倉学園高校出身）、石井颯人さん（埼玉県立上尾南高校出身）、加藤祐樹さん（東京都・東京工業

大学附属科学技術高校出身）が参加しました。製作会場は、早稲田大学各務記念材料技術研究所で、2016年8月31日（水）にガイダンス、9月1日（木）に鑄造作業が行われました。

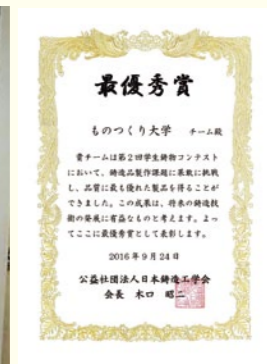
コンテストでは、主催者が用意した木型などを用いて、独自の鑄造方案を検討して実際に鑄造までを行い、その出来映えが評価されました。その結果、本学のチームは、欠陥がほとんどない鑄物を作ることができ、最優秀の評価を得ました。



鑄造したアルミニウム合金鑄物



2016年秋大会(第168回全国講演大会)での表彰式



表彰状

## からくりマシンの製作 テレビ放映

製造学科13期生（2016年度卒業） <sup>さの のりゆき</sup>  
佐野 紀行（茨城県立下妻第一高校出身）  
<sup>こうむら まこと</sup>  
製造学科准教授 香村 誠

日本テレビ「所さんの目がテン！」から、番組内の特集コーナーのため、からくりマシンの製作依頼をいただきました。私たちは同じプロジェクト活動（スターリングエンジンプロジェクト）に所属している1年生4人と急いで製作班を結成し、番組ディレクターと打合せ協議しました。

番組からは全体のテーマと一部要素の希望を受けましたが、設計は私たちに委ねられました。時間に余裕がなかったため、私たちはメンバー各々が個々の装置考案から製作までを一貫して担当することにして、設計者と製作者の理解の相違を排除する工夫をしました。

製作には随所で難しい作業が伴います。撮影の直前には装置の一部が破損するという緊急事態が発生し、浮き足立つメンバーもいましたが、全員で最後まで粘り続けた結果、からくりマシンは見事に完成し、大成功を取ることができました。土壇場でもやり抜く達成感を大いに感じられた素晴らしい経験だったと思います。

この様子は、2016年10月23日（日）に放映されました。



番組撮影の様子



からくりマシン全体



設置の様子

2016年度 学長表彰紹介

【学長特別表彰】

氏名	学科・学年	内容
佐野 紀行	製造4	第20回スターリングテクノロジーにおいて、「人間乗車クラス、ラジコンクラス、ミニ速度クラス」の3部門で金賞
森田康二郎	製造4	
関根 宏司	製造3	
糸井 誠人	製造1	
森脇 康太	建設3	第54回技能五輪全国大会（建築大工職種）にて金賞
手島 脩兵	建設2	第54回技能五輪全国大会（建築大工職種）にて銀賞
山口 智大	建設2	第54回技能五輪全国大会（家具職種）にて銀賞
田中 健太	建設2	第54回技能五輪全国大会（左官職種）にて銅賞

【学長表彰】（製造学科）

氏名	学年	内容
倉持弥智世	4	噴霧機構を搭載した三角コーン「ミストコーン」の開発、特許出願に貢献
渡邊 淳	4	
佐々木 光	4	
城田 耀	4	
吉川 徹	4	
能登屋芙蓉	4	設計コンテスト2016（日本設計工学会）にて、ユニーク賞
上村 武正	4	学生鋳物コンテスト（日本鋳造工学会）にて、最優秀賞
石井 颯人	4	
加藤 祐樹	4	

【学長表彰】（大学院）

氏名	学年	内容
今泉 博貴	2	設計コンテスト2016（日本設計工学会）にて、ユニーク賞

【学長表彰】（建設学科）

氏名	学年	内容
本多 諒平	4	第54回技能五輪全国大会（建築大工職種）にて敢闘賞
針生 直樹	3	第54回技能五輪全国大会（家具職種）にて敢闘賞
渡邊 恵子	2	第54回技能五輪全国大会（家具職種）にて敢闘賞
木下 和哉	2	第11回若年者ものづくり競技大会（建築大工職種）にて敢闘賞
平野 慎也	3	日本建築学会 関東支部 第18回提案競技 建築・まちづくり提案の部にて佳作
峯崎 光	3	
藤田 梨沙	3	日本インテリア設計士協会 インテリア優秀学生賞
加藤 佑佳	4	
中野 綾希	2015年度卒業生(院1)	埼玉県設計監理協会主催卒業設計コンクールにてJIA埼玉優秀賞、総合資格学院賞
齊藤 雅仁	3	「建築積算士補」試験にて優秀賞

※学年は2017年3月時点のものです。 学生課 厚生係

日本設計工学会「学生設計コンテスト2016」ユニーク賞受賞、  
「2016年度 春季研究発表講演会」優秀発表賞を2年連続受賞

まつもと ひろゆき  
製造学科教授 松本 宏行

2016年5月に東京工業大学で開催された公益社団法人日本設計工学会主催「2016年度春季研究発表講演会」にて「学生設計コンテスト2015への参加(ものづくり大学チームの事例)」の発表を行い、「優秀発表賞」を受賞しました(写真1)。「設計コンテスト2015」の事例に加え、設計製図教育などを紹介しました。松本研究室としては、2015年度に続き2年連続の受賞です。

また、「学生設計コンテスト2016」において、能登屋芙蓉さん(製造学科4年・埼玉県立

寄居城北高校出身)、今泉博貴さん(大学院修士2年・佐賀県立伊万里高校出身)のチームが「ユニーク賞」を受賞しました(写真2)。「置時計」を題材に変形ロボット型の時計(図1)を設計しました。金型要件、樹脂流動解析および3Dプリンタの造形試作に取り組みました。2件の表彰を振り返ると、製造学科で取り組んでいるものづくり教育の基本である設計について高く評価されたことに、担当教員として大変嬉しく思います。

※学年は2016年5月時点のものです。



写真1 優秀発表賞の賞牌と賞状



写真2 「学生設計コンテスト2016」ユニーク賞を受賞(左:今泉さん、右:能登屋さん)

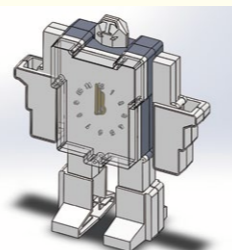


図1 「変形ロボット型の時計」CADデータ

日本ものづくり学会によるものづくり大学の  
学生・大学院生・卒業生に対する表彰

なかむら たかお  
(一社)日本ものづくり学会理事長・名誉教授 中村 隆夫

ものづくり大学の同窓会では、これまで毎年、優秀な学生・大学院生を表彰してきましたが、2016年度より、実績ある卒業生に対する賞も加えて日本ものづくり学会が引き継ぐことになりました。これを機に本学会の設立趣旨と表彰制度についてご紹介いたします。

ものづくり大学が設立され、ものづくりという言葉も一般的になりましたが、これをさらに実あるものにして世界に発信しようと、2016年6月、一般社団法人日本ものづくり学会が発足いたしました。その設立の目的は、ものづくり大学に呼応し、ものをつくる技術・技能、マネジメントに関する研究およびものをつくる人材の教育に関する研究を促進し、発展させることです。また、仕事に誇りを持ち、採算を度外視して、納得のいくものを追求する技術者・技能者・職人に対する正当な評価と処遇の改善を促して活躍の場を国内外に拡げ、企業・団体との連携において

も寄与・貢献しようとするものです。

そうした活動の一つとして本学会では優秀な論文、作品、技術、技能、業績、教育などを表彰しています。この内、ものづくり大学の学生・大学院生の卒業研究・修士学位プロジェクトを対象とするのは「日本ものづくり学会匠奨励賞」、卒業生を対象とするのは「日本ものづくり学会匠業績賞」であり、受賞者は、匠奨励賞が大学の学部と大学院研究科から、匠業績賞が大学同窓会からそれぞれ推薦されることになります。

なお、日本ものづくり学会の目的、設立趣旨、運営の基本方針、ものづくりのコラム、会員・関係者の活動・近況などの詳細および匠奨励賞、匠業績賞以外の学会賞の募集につきましては、学会のホームページ

(<https://sites.google.com/site/monotsukurikai/>)に掲載されておりますので、ご覧いただければ幸いです。

2016年度日本ものづくり学会匠奨励賞・受賞者

氏名	所属	研究室	卒業研究、修士学位プロジェクト題目
佐野 紀行	製造	ピチャイ	ハイブリッド型交流電源に関する研究
豊田 大聖	製造	ピチャイ	ドライミスト発生装置の開発とその応用
加藤 祐樹	製造	西	アルミニウム合金の湯流れ性に及ぼす金型表面溝の効果
田中 愛海	建設	林	ベトナム中部地域四省の伝統家屋の配置構成および架構形式に関する研究
佐久間勇気	建設	長谷川	P波とS波の伝搬を考慮した地震波動模型の開発
平田 彬直	建設	三原	ミャンマー・スキルズトレーニングセンターにおける鉄筋および型枠工の教材制作
石渡 翔太	大学院	大塚	既存コンクリート構造物の中性化に及ぼす各種要因の影響に関する研究

※日本ものづくり学会匠業績賞は該当者なし



建設学科表彰(左から佐久間さん、田中さん、平田さん)



大学院表彰(石渡さん)



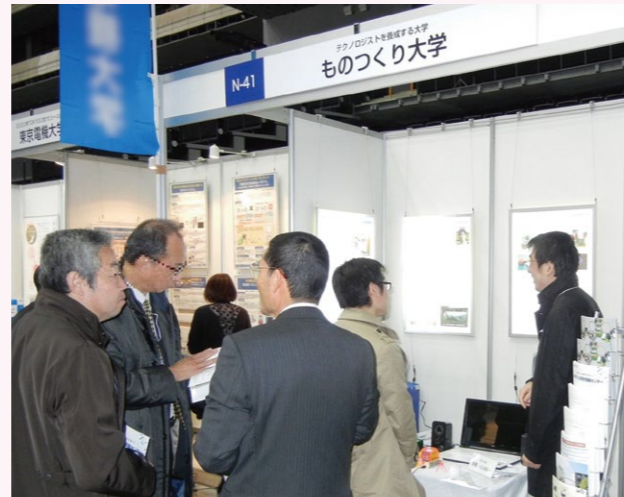
製造学科表彰(左から豊田さん、加藤さん、中村理事長、佐野さん)

## 「彩の国ビジネスアリーナ2017」に出展

2017年2月1日(水)、2日(木)の2日間、さいたまスーパーアリーナで「彩の国ビジネスアリーナ2017」が開催されました。

この展示会は、中小企業の受注拡大・販路開拓・技術力向上を目的として、広域的な企業間ネットワークによる新たなビジネスチャンス創出の場を提供するもので、2日間の来場者が17,000人を超えるほどの大盛況でした。

本学のブースでは、「加圧式溶解方式によるマイクロバブル発生とその応用」(香村研究室・平井研究室)と「姿勢変化に応じて異なる音色を生成する電子楽器『球舞-CUBE-』」(松本研究室)の研究パネルの展示と製作品の実演をしたところ、多くの来場者の方が足を止めて見入っていました。



本学のブースの様子

また、「技術シーズ発表会」では、関根教授が「ものづくり現場活性化支援事業」について、松本教授が上記の「電子楽器『球舞-CUBE-』」について、それぞれ発表しました。

ものづくり研究情報センター

## 大学間および地域との連携による 埼玉県加須市古民家再生プロジェクト

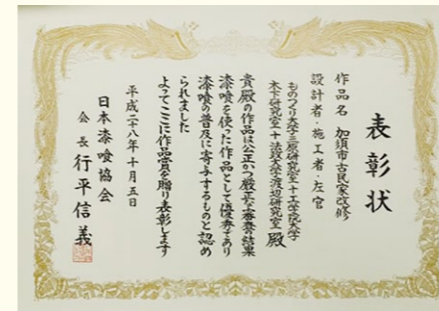
建設学科教授 みはらひとし  
三原 斉

埼玉県加須市油井ヶ島は、屋敷森の点在する農村風景を保っていますが、後継者問題・耕作放棄地・廃屋等がこの地域にも広がりつつあります。

2013年2月にもものづくり大学三原研究室、工学院大学木下研究室、法政大学渡辺研究室の3大学3研究室の協働で新井家および石井家の実測調査を行い、報告書・実測図面集としてまとめました。実測調査を手掛かりに3研究室の学生たちは、古民家改修および再生の提案を検討し、改修設計案、模型作成からセルフビルドによる施工まで大作業や

左官の漆喰塗り壁作業など専門職である非常勤講師や教員の指導を受け、設計および施工に取り組み2015年3月に竣工いたしました。

本改修工事は、内壁が漆喰塗り、外壁を中塗り土仕上げとし伝統的な自然素材と工法を採用して歴史性に配慮しました。本プロジェクトは、「大学連携と地域連携」という手法で地域を再生する可能性を示すことができ、これらが評価され、第11回日本漆喰協会作品賞を受賞いたしました。



日本漆喰協会作品賞 3大学表彰状



大作業後左官漆喰塗り壁作業の状況



プロジェクト竣工直後の3大学の学生たち

## 宇宙教育プログラム(東京理科大学)に参加して

製造学科3年 いけだ まさき  
池田 勝紀(岩手県・岩手高校出身)

東京理科大学で募集された「宇宙教育プログラム」に志願し、参加する機会を得ました。(神楽坂/野田キャンパス、及び名古屋)

宇宙教育プログラムは国際的に活躍できる技術者の構築を目的として、講義・実習・体験・講演の4つのプログラムにおいて、宇宙開発・宇宙産業の将来を担うことのできる研究者、技術者を養成するものです。

私は最先端の宇宙開発について、実際に宇宙に行かれた向井先生を始めとする宇宙飛行士の方々や人工衛星、ロケットの運用を行った先生方の講義や宇宙環境を模擬した実習(パラボリックフライトなど)で体感し学ぶことができました。更に宇宙開発の最先端である米国(ヒューストン/シリコンバレー)に渡航し宇宙開発についての歴史、最先端の技術を使用した宇宙開発について学ぶこともできました。

ここで得た知識経験と本学で学ぶ技術など

を合わせ、学生プロジェクトで行っているロケット・探査機の開発・運用に活かして活動し、将来の宇宙開発を担う日本の宇宙産業に貢献できる人材になりたいと思います。



微小重力実験中の様子



ジョンソン宇宙センターサターンVロケット前にて

## ミスト機構付き三角コーン『ミストコーン』の開発

製造学科教授 すがやさとし  
菅谷 諭

高温下の作業は熱中症の危険性があります。また塵埃が舞うと、事故の原因となり健康に害を及ぼします。従来のミスト装置は、高価であり設置撤収が困難であるため移動する工事現場等には適しません。

そこでミスト機構付き三角コーン『ミストコーン』を開発しました。噴霧したミストの気化熱により周囲の温度を下げます。またミストにより塵埃を除去し作業環境を改善します。軽量で積み重ねられるので、運搬・設置・撤収・収納が容易です。さらに安価な部材で構成して低価格化を実現しました。

2016年夏、熊谷スポーツ文化公園に設置し、その効果が確認され高評価を得ました。2019年ラグビーW杯に採用される予定です。企業、本学大学院修了生、および本学研究室で産学連携を進め、特許出願、商標登録を行い、製品化を進めております。『ミストコーン』は、埼玉新聞、日本テレビ「ぶらり途中下車の旅」、テレビ東京「トレたま」等に取り上げられました。



テレビ東京「トレたま」取材状況



実験の様子



熊谷スポーツ文化公園での設置状況(様々なタイプのミストコーン)

## 秩父市と連携協力に関する協定締結

2016年8月31日、秩父市と連携協力に関する協定書締結式を行いました。

本協定は、包括的な連携のもと、産業、教育、福祉、環境、森林資源などの諸分野において相互に協力することを目的としたものです。

秩父市とは主に地場の木材を活用した取り組み実績がありましたが、更に多面的な連携協力を進めるための包括的協定を締結する運びとなったものです。



赤松明学長(左)、久喜邦康秩父市長(右)

## 長瀨町と連携協力に関する協定締結

2016年11月1日、長瀨町と連携協力に関する協定書締結式を行いました。

本協定は、観光資源の活用について連携することを目的としたものです。

長瀨町とは本学建設学科の田尻研究室が観光活性化についての調査協力をしており、更に多面的な連携協力を進めるために協定を締結する運びとなったものです。



大澤タキ江長瀨町長(左)、赤松明学長(右)

教務・情報課 地域交流係

## フィリピン国立大学等学長視察団の来学について

日本の大学での産業人材育成事例や産学連携事例等の研修目的で、フィリピン国立大学等の学長18名が2017年1月25日に来学されました。

赤松学長からの挨拶の後、ものづくり研究情報センターより「長期就業型インターンシップと学生の将来についての一考察」(建設学科 三原教授)、「上尾シラコバト住宅改修報告」(建設学科 八代教授)、「ものづくり現場活性化支援事業の紹介」(製造学科 関根教授)の3事例を紹介しました。

ランチミーティングで闊達な意見交換を行った後、製造学科 ピチャイ教授・建設学科 三原教授が施設見学で両学科の紹介を行いました。

見学の後、内容豊富なプレゼンテーションに加え特色のある大学を実際に見学してその活動内容を深く理解でき、「産業人材育成」や「大学と地域の共生」などのテーマに大きな興味のある各学長にとり非常に有意義であったと、満足された感想をいただきました。



製造学科見学

建設学科見学



フィリピン国立大学等学長視察団と本学関係者

教務・情報課 国際交流係

## マンガカー工作教室・レース大会開催

本学では毎年、学生の指導のもとで小学生がマンガカーを製作する「工作教室」と、学生の作ったサーキットでレースを行う「マンガカーレース大会」を開催しています。

2016年度も碧蓮祭にあわせて開催し、約300名の子供も楽しみました。

レース大会では、アルカリマンガン電池をエネルギー源とする模型自動車を、基本的な部品のみを提供し自由に製作してもらい、タイムトライアルによって性能を競い合います。プラモデルのように誰にでも同じ形状・性能が得られるものではなく、タイヤ、モーター、電池ボックスの配置やシャーシの形状などにより走行性能に大きな違いが生じるため、自分の頭で考えてものづくりを楽しむ良い機会となっています。

2015年度はこの取り組みが日本ホビー協会主催の「第25回ホビー大賞」で特別賞を受賞

し、2016年度はNHKのニュース内で開催の様子が放送されるなど、年々注目度が高まっています。



工作教室の様子



レース大会の様子

教務・情報課 地域交流係

## ラオス人の木材加工トレーナーが研修でスキルアップ

ラオスにあるIV-JAPAN(アイブイジャパン)木工訓練センターから2名のラオス人トレーナー(木工)が研修のために来日し、2016年8月28日～9月11日の間、本学に滞在しました。

IV-JAPANは、認定/埼玉県指定特定非営利活動法人の国際協力NGOで、ラオスにおける職業訓練による人材育成・自立支援などの活動を継続しています。今回の研修は、JICA草の根技術協力事業に埼玉県とIV-JAPANが応募して採択された「青少年の収入向上のための木工職業訓練事業」の一環として実現したものです。埼玉県は本事業を「埼玉・アジアプロジェクト」の一つとして位置づけており、本学へ事業への協力依頼をいただきました。

2015年度は家具木工の専門家である本学赤松学長(当時建設学科教授)等がラオスに出向き、木材加工と木材塗装について指導を行いました。

2016年度は上記日程で来日したトレーナーに対し、より上位の研修を実施しました。本学での木工機械の整備点検方法やNC加工法の講習、本学非常勤講師の五百部喜作先生の協力による(株)イヨベ工芸社での椅子張り技法の講習、カリモク家具(株)、飛騨産業(株)ショールームや川越高等技術専門校の見学等、充実した研修となりました。



本学での木工機械の整備点検方法の講習



(株)イヨベ工芸社での椅子張り技法の講習

教務・情報課 国際交流係



## ものづくり大学市民特別公開講座 「日本の戦争、日本の近代—まちと建物からみえること—」

2016年10月30日(日)／ものづくり大学  
講師 国際日本文化研究センター教授 井上 章一 氏

2016年度の市民特別公開講座は、学園祭「碧蓮祭」と同日開催で行われました。著作『京都ざらい』などで著名な井上氏は、独自の視点で文化論を展開していらっしゃる。冒頭から、「私はイタリアが好き」との発言に、『京都ざらい』に込められた京都愛を感じていた方は驚かれたのではないのでしょうか。しかし、お話は本題へと展開します。

イタリアが「何故第二次世界大戦に早々と負けることとしたか？」という疑問を、「(爆撃されないだろうと思っていたに違いはない)ローマが爆撃された」から、「イタリアはローマ爆撃の50日後には休戦協定に調印することを決断し、ドイツ軍に発覚しないよ

うに巧みに調印に漕ぎ付けた」と分析されました。一方で、「日本が最初に本土空襲を受けてから2年以上も戦い続けてしまった」のは、「過去から引き継いできた文化や文化財に対する考え方が違ったのではないかと指摘されました。その例として、「明治近代の日本を代表する建物のはずだった鹿鳴館を、戦時中に木造バラックの官庁街建設のために壊してしまった」というお話で、終戦まで戦い続けた日本との違いが際立ちました。

1時間あまりの講演の中で、イタリア好きと言いつつ、実は日本の歴史と文化への厚い情熱が感じられ、あらためて身近な文化について考えさせられた講演でした。



公開講座の様子



井上章一氏

教務・情報課 地域交流係

## ものづくり大学特別公開講座 「デジタル・ファブリケーション—新国立競技場から未来のものづくりに向けて—」

2017年2月22日(水)／パレスホテル大宮  
講師 建築家・東京大学教授 隈 研吾 氏

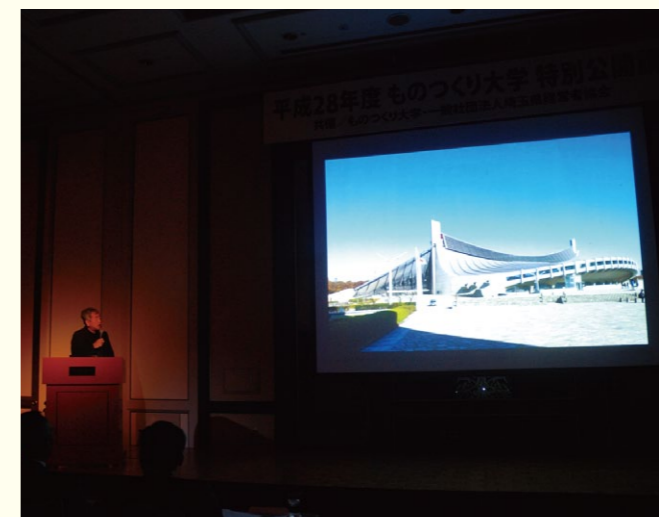
隈氏は2020年東京オリンピックの新国立競技場の設計者で、小学生の時に1964年東京オリンピックで代々木体育館の吊り構造の美しさに魅せられ建築を志されました。新国立競技場は一見、デジタル技術を駆使した大きな建築ですが、隈氏は主に人間や自然環境の観点で語られました。例えば法隆寺五重塔や明治神宮の軒は日射や雨を凌ぐだけでなく、日本の伝統的な木造技術の美しさがあり新国立競技場でも軒裏等に国産のスギやカラマツ等の木を用いて、「人」が見上げた時にデザインの見せ場があることを主張

されました。木を多く使う理由として、幼い頃に木造の家で育ち自ら建築に手を加えて修理することができる楽しさを知ったことや、これからの時代は自然素材として木が相応しいことを説明されました。

他にも小さな店舗から大きな公共建築まで多くの国内外の事例を紹介し「建築の幅が広がった」と結論づけられました。

それらの共通点として建築が「人」に相応しい大きさとなる工夫がみられました。つまり、建築設計のアイデアの源は木の玩具や家具、建具等の「小さなものの仕組み」だったのです。

最後に「多様で新しい社会が来た、ものづくり大学はそれに相応しい」と総括されました。まさに本学が進む未来の方向性を示唆されたのです。



公開講座の様子



隈研吾氏

とだ つきお  
建設学科准教授 戸田 都生男

## 第16回ものづくり大学碧蓮祭開催報告

第16回碧蓮祭実行委員長・建設学科3年 相馬 光一(神奈川県・横浜学園高校出身)

第16回碧蓮祭のテーマは「連携」で、学年を越えた連携、卒業生との連携、地域の皆様や外部関係団体との連携をより深めることを目的とし、2016年10月29日(土)、30日(日)に開催しました。学生による出展・ステージ企画に加え、同窓会による匠絆祭・花火大会、技能士会連合会が主催する技能まつりや、職業能力開発協会が主催するものづくり技能フェスタなど、多彩なイベントも同時開催しました。

恒例となっている学生が製作した成果物の展示やものづくり体験など学内外の様々な企画を行い、例年以上に多くの来場者で賑わいました。この2日間のために、準備してきた出店者や協力頂いた関係者の方々のおかげです。2017年度も、新たな実行委員会によって、来場したすべての人達が楽しめるものづくり大学らしい碧蓮祭を企画し、2016年度以上に碧蓮祭を盛り上げてもらいたいと思います。



賑わう碧蓮祭会場



学生の製作物で遊ぶ来場者

## 大学認証評価の認定

ものづくり大学は、2016年度「財団法人日本高等教育評価機構」による評価を受けました。

その結果、2017年3月に「日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしている」と認定されました。



## オープンキャンパス

ものづくり大学のことをもっと知っていただくために、オープンキャンパスを開催いたします。どうぞまわりのお友達やご家族もお誘いの上、お越しください。オンリーワンをめざすものづくり大学で、きっと驚くような、新しく面白い発見があなたを待っています！

吹上駅から無料バスが運行されます！  
(10/28,29を除く)



特別イベント「高校生ロボット相撲全国大会」

2017年 2018年

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	3月
28日	18日	9日	5日	9日	28日	26日	25日
日	日	祝・月	土	土	土	日	日

※は進学相談会 ★10/28、10/29は学園祭同時開催 ★11/26はものづくり大学で、高校生ロボット相撲全国大会が開催される予定です

### ドーナトリ(学生寮)宿泊体験

遠隔地からオープンキャンパスに参加される方は、ドーナトリ(学生寮)に宿泊することができます。詳しくは入試課まで。



### 個別大学見学

オープンキャンパス以外にも個別大学見学「あなたのための見学会」を受け付けています。事前に入試課にお申し込みください。



### 全体説明会



大学の概要をお話します。その後、研究室の学生による大学紹介や入試概要など、開催日によってさまざまなコンテンツを用意しています。

### キャンパスツアー



ものづくり大学の特徴である各種施設を学生スタッフがご案内します。最新の教育研究機器や学生制作物などをご覧ください。

### 体験模擬授業



両学科、毎回異なるテーマで実施します。聞くだけの授業だけではなく、体験型の授業を数多く用意しています。



両学科、実際の授業に近い体験をすることで、大学の授業の雰囲気を味わうことができます。

### ドーナトリ(学生寮)見学



大学の敷地内にある学生寮の見学会です。実際にドーナトリに住んでいる学生スタッフがいますので、生の声をお聞かせください。

### 進学個別相談



進学のことや入試制度、大学の特色、奨学金のことなど、なんでもご相談ください。AO入試のエントリーも受付します。

### 在学生メッセージ



在学生からのメッセージを聞くことができます。また、当日は学生スタッフがみなさんをご案内します。わからないことや聞いてみたいことを何でも相談してください。

### 学食ランチ無料体験



「食」のことも要チェック。学生食堂でランチ体験ができます。栄養のバランスが良くボリューム満点の学食ランチを無料体験してください。

## 入試TOPICS

### 特待生制度

推薦入学試験(ものづくり特待生)での上位合格者、または一般入学試験A日程・入試センター利用試験A日程の上位合格者は、特待生として認定され、年間授業料(88万円)の全額または半額が免除されます。なお、特待生も奨学金に応募することができます。

### 検定料優遇措置

本学の入学試験を複数回受験する場合、検定料の優遇措置があります。詳しくは大学までお問い合わせください。

### 他学科併願無料

一般入学試験と入試センター利用試験は、第2希望学科を無料で併願することができます。

### 地方入試

推薦入学試験A日程、一般入学試験A日程、外国人留学生入学試験A日程は、大会会場の他に、宮城県・長野県・新潟県・大阪府・福岡県でも入学試験を実施します。試験会場の詳細は大学ホームページまたは、大学までお問い合わせください。

### 試験日自由選択(高得点採用)

一般入学試験A日程は、2日間の試験日から受験する日を自由に選択できます。また、2日間とも受験した場合は、高得点の結果で合否判定します。

### 検定料コンビニ支払

検定料は全国のコンビニエンスストア(セブンイレブン、ファミリーマート、ローソン、サークルKサンクス)で支払うことができます。

★入試日程等は、大学案内、大学ホームページ等でご確認ください。

## 奨学金情報

### ものづくり大学奨学金

学部生30万円・大学院生45万円を給付。  
学部・大学院に在籍する2年次の学生対象。  
採用人数(2016年度実績)13名

### ものづくり大学さくら奨学金

12万円を給付。  
学部・大学院に在籍する3年次及び4年次の学生対象。  
採用人数(2016年度実績)4名

### ものづくり大学生生活支援奨学金

年間30万円を給付。  
受験前に申請と採用の確認が可能。  
採用人数(2016年度実績)33名

◎ものづくり大学独自の3つの奨学金はすべて給付制であり返還は不要です。

◎大学独自の奨学金と特待生の2つの制度によって、新入生のおよそ5人に1人以上が大学からの経済的支援を受けることができます。

## 私費外国人留学生授業料減免制度

私費外国人留学生の場合、入学料50%(15万円)、年間授業料40%(35.2万円)を減免します。初年次学生納付金は99.8万円、2年次以降は84.8万円です。なお、入学検定料も50%減免となります。

## オープンキャンパス予約特典

ものづくり大学のオープンキャンパスは予約なしで参加できますが、事前に予約すると当日プレゼントがあります。ぜひ、ホームページから予約してください。

## 資料請求

ものづくり大学ガイドブックや募集要項など、多くの大学資料をゆっくりとご覧ください。資料の請求は、大学ホームページまたは、入試課にご連絡ください。



## Calendar 2017年4月~2018年3月

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
行事・式典など	4: 新入生ガイダンス 5: 入学式 10: 第1Q授業開始	4: さきたま火祭り 2021: 蔵めぐり スタンプラリー 28: オープンキャンパス	12: 第1Q授業終了 13: 第2Q授業開始 18: オープンキャンパス	9: オープンキャンパス 中旬: 古代運まつり 17: 海の日・平常授業 オープンキャンパス 23: オープンキャンパス 29:30: 行田市浮き城まつり 30: オープンキャンパス	5: オープンキャンパス 10: 第2Q授業終了 13: オープンキャンパス 8/14: 学生夏期休暇 8/15 26: オープンキャンパス	9: オープンキャンパス 19: 祝日振替休業 20: 第3Q授業開始	9: 体育の日・平常授業 27: 学園祭準備・臨時休講 28: 第17回碧蓮祭 進学相談会 29: 第17回碧蓮祭 進学相談会 30: 祝日振替休業	上旬: 行田市商工祭 忍城時代まつり 3: 文化の日・平常授業 21: 第3Q授業終了 22: 祝日振替休業 24: 第4Q授業開始 26: 高校生ロボット相撲 全国大会 進学相談会	12/25: 学生冬期休暇 ~1/3 12/29: 年末年始休業 ~1/3	12: センター試験前 臨時休講 13/14: 大学センター入試 下旬: 卒業研究発表会	1:2: 入試・臨時休講 初旬: 修士論文発表会 8: 第4Q授業終了 2/9: 学生春期休暇 ~3/31	16: 卒業式・修了式 25: オープンキャンパス		
学期(クォータ)	1Q		2Q		夏期休暇		3Q		4Q			春期休暇		
図書情報センター 通常 9:30~18:00 短縮 10:00~17:00 延長 9:30~18:30 *土・日・祝日は休館	短縮 4/1 ~4/7	休館 5/3 ~5/5	延長 5/30 ~6/12		延長 7/28 ~8/10	休館 8/11 ~8/31	短縮 9/1 ~9/15	休館 10/27 ~10/30	延長 11/8 ~11/21	短縮 12/25 ~12/27	休館 12/28 1/12 ~1/3	延長 1/24 2/1~2 ~31	延長 2/5 2/9 2/19 ~2/8 ~3/2	休館 3/5 ~3/31

## ものづくり大学通信 バックナンバー

バックナンバーのPDFを公開しています。ぜひご覧ください。

【ものづくり大学通信】で検索!

## ものづくり大学通信 No.17

発行日: 2017年5月17日  
 発行人: 赤松 明  
 編集長: 龍前 三郎  
 編集: ものづくり大学通信  
 編集委員会



お問い合わせ先



〒361-0038  
埼玉県行田市前谷 333 番地  
TEL 048-564-3819  
FAX 048-564-3201  
E-Mail [tsushin@iot.ac.jp](mailto:tsushin@iot.ac.jp)  
<http://www.iot.ac.jp/>

(表紙) クチキ建築設計事務所 (1916)・足袋蔵ギャラリー  
「門」(1916)・パン工房 KURA (1910)

スケッチと文: 藤原成暁 (図書情報センター長・教授)

前号に続いて、伝統を引継いで現代に伝える足袋蔵の好ましい改修例をご紹介したい。本学客員教授である朽木宏氏が自身の建築設計事務所及び画廊にコンバージョンしたものである。手前右には手づくりパンの店舗とギャラリー、手前左には元市長宅の庭を眺めながら軽食・喫茶のできる食事処も併設され、街の一角にホッとする空間をつくっている。